

## 世界の外貨準備から見えること

2019年第四四半期末の世界の外貨準備における通貨構成がIMFから発表された。そこから読みとれるポイントを挙げる。

1. ドルの割合(60.89%)が60%台に低下した。長期低減傾向が続いていて数期後には史上初めて50%台へ低下する可能性も出てきた。50%を切ればドル離れの問題が浮上するのは確実だが、50%台でも可能性はあるので注意したい。

2. ユーロの割合(20.54%)は前期よりも増加したが、ドルからのシフトと考えられる。ただユーロの増加は前期に落ち込んだ戻しの部分が多く、顕著な増加傾向を示しているとは言えない。

3. 人民元の割合(1.96%)は依然として2%を超えない。人民元の国際化が進んでいない証左だ。中国当局は人民元の国際化と言う中長期的目標よりも、資本規制や為替レートの安定を重視した介入に軸足を移しているためだ。

4. 円の割合(5.70%)は増加傾向が続いている。ここ数年はほぼ一貫して増加している。安全通貨としての需要、一部ドルからのシフト、低金利が円の需要を減少させる傾向が弱まったことなどが要因として考えられる。

5. ポンドの割合(4.62%)は若干増加した。BREXITを国民投票で決めた直前の期の割合と比べると、今回ほぼ同じ割合になった。この数字を見るとBREXITはポンド離れに全く影響しなかったことになる。

6. Aドル(1.69%)、Cドル(1.88%)両通貨の割合はほとんど変化していない。スイスフランの割合(0.15%)もほとんど変化ない状況が続いている。スイスフランは円と同様安全通貨で、リスクオフの時は為替レートも上昇する傾向がある。だが短期のトレーディングが主体で、中長期のポートフォリオのシフトは関係していないと考えられる。

7. その他通貨の割合(2.56%)はほとんど変動がない。外貨準備の通貨として上記以外の通貨が大きく増加したり減少したりしていないと考えられる。

以上です。